

コレクション展 2022-冬春

特集 若き日の野長瀬晩花

2022年2月8日(火)～4月17日(日)



1. 1914年、25歳の晩花

のながせ ばんか
野長瀬 晩花 1889-1964

1889 (明治22) 年、現在の和歌山県田辺市中辺路町に生まれる。大阪で中川蘆月に、京都で谷口香嶺に日本画を学ぶ。京都市立絵画専門学校別科に入学するも、1911 (明治44) 年に中退。1913 (大正2) 年に文部省美術展覧会の会場前に移動式テントを設置し秦テラヲとパンカ・テラヲ展を開催するなど、テラヲや竹久夢二らと交遊しながら奇抜な作品を発表し、京都で異色の日本画家として知られた。1918 (大正7) 年には、小野竹喬や土田麦僊らと国画創作協会を創立し、団体の急先鋒として活動。ポスト印象派など最新の美術思潮を採り入れながら、斬新な日本画作品を多数発表した。



2.《都をどり》 1917年頃 顔料、絹 *新収蔵作品 (初公開)

野長瀬晩花旧蔵資料のほか、

初公開となる《都をどり》など、近年収蔵された作品も紹介

当館は1963 (昭和38) 年に開館した和歌山県立美術館を前身として、1970 (昭和45) 年11月県民文化会館内に開館し、明治時代以降の和歌山ゆかりの作家の紹介を中心に活動を続けてきました。1994 (平成6) 年に黒川紀章の設計による現在の建物でリニューアルオープンすると同時に、作品収集の範囲を国内外へ広げ、現在では日本画、洋画、彫刻、版画など総数1万点を超える作品を所蔵するに至っています。

コレクション展では、幅広い美術の表現に接していただけるよう、季節ごとに展示を替え、和歌山ゆかりの作家を中心に、さまざまな観点から所蔵作品の紹介を続けています。和歌山県からは、日本画、洋画、彫刻、版画等の分野で活躍した個性豊かな人物が多数輩出しています。本展覧会では彼らの作品とともに、高井貞二、村井正誠ら本県とゆかりの深い作家や、佐伯祐三などの近代日本美術を代表する作家の作品も交えて、近現代の美術の流れをご観いただけるよう構成しています。

特集展示では、1918 (大正7) 年に京都で国画創作協会を創立し、斬新な日本画を発表した野長瀬晩花を紹介いたします。若き日の晩花が、当時京都の主流であった円山・四条派の写生を脱し、ポスト印象派等の影響下で先鋭化していく様子をご覧ください。

コレクション展 2022- 冬春

特集 若き日の野長瀬晩花

2022年2月8日(火)～4月17日(日)

開催概要

主催	和歌山県立近代美術館
会場	和歌山県立近代美術館 1階展示室
会期	2022年2月8日(火)～4月17日(日)
開館時間	9時30分～17時(入場は16時30分まで)
休館日	月曜日(ただし3月21日(月)は開館し、翌22日休館)
観覧料	一般350(270)円、大学生240(180)円 ()内は20名以上の団体料金 *高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料、 *2月26日、3月26日(毎月第4土曜日)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料 *3月6日、4月3日(毎月第1日曜日)は全館無料



3.《三味線を弾く女》 1917年頃 顔料、絹



4.《被布着たる少女》 1911年 顔料、絹



5.《舞妓図》 1916年 顔料、絹

関連事業

▶フロアレクチャー (学芸員による展示解説)

日時: 3月6日(日)、4月3日(日) 両日も14:00から1時間程度

*1階展示室にて、観覧券が必要です。

☆新型コロナウイルス感染拡大の状況により予定が変更となる可能性があります。

最新の情報はホームページなどでお知らせいたしますので、ご確認の上ご来館ください。

掲載用画像については
広報担当にお問合せ下さい。

※作品画像については文字のせ、
トリミング等のご遠慮ください。

※作品はすべて野長瀬晩花作、当館蔵です。

同時期に開催の展覧会

▶企画展「20世紀からおみやげ。近現代美術のたのしみ」

会期: 2月5日(土)～3月27日(日)

▶【県立博物館(となり)の展覧会】

企画展「仏像は地域とともに - みんなで守る文化財 -」

会期: 1月29日(土)～3月6日(日)

企画展「和歌祭と和歌の浦」

会期: 3月12日(土)～4月17日(日)

和歌山県立近代美術館

学芸担当: 藤本真名美 広報担当: 中川、角

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14

T E L: 073-436-8690

F A X: 073-436-1337

E-MAIL: moma_w@future.ocn.ne.jp

W E B: <https://www.momaw.jp>